



人生における三つの資産。それは「時間」「力」「体力」だ。これらが潤沢なときは、いつだろうか？ うまくバランスがとれて充実する時期はあるのだろうか？

体力はあるけれど時間と力ネがない。20代の頃の僕もそうだった。テニスやスキー、ウインドサーフィンなどのスポーツに加え、車も大好きで、今では考えられないほど燃費の悪いスポーツカーを乗り回していた。給料は安くて当然力ネはないが体力だけは有り余り、毎日楽しくて遊ぶ時間が足りなかった。

30代になると、これまで遊ぶために使っていた時間を子育てや家事に充てた。住宅ローンや塾代に力ネがかかるようになったが、まだまだ体力だけは自信があった。

住宅ローンが終わり、子どもたちも大学を卒業して、自由になる時間と力ネは少しだけ増えた。それが50代だ。しかし、体力の衰えが気になり始めた。元氣いっぱいの愛犬と河川敷を走ると、すぐに息が上がるようになったし、健康診断の数値も微妙な項目が増えた。

人生における三つの資産。それらが全て潤沢で、うまくバランスがとれる時期は「ない」ということが徐々に分かってきた。これから体力はますます衰えていき、たとえ時間と力ネがあつたとしても、それらを使いこなすことができるのか？ そんな不安が頭をよぎる。

連載の最終回にあたり、若い人たちにメッセージを贈りたい。体力が十分にあるうちに時間と

後悔しない生き方

力ネを豊かな人生づくりに充ててほしい。将来のために力ネをためるのは堅実で大賛成だが、自身を高めるために使うことをちゅうちゅうするべきではないだろう。国家資格に挑戦したり、本を読みあさったり、夜学に通ったり。「若いうちの苦労は買ってでもしろ」という言葉があるけれど、これは人生の大先輩たちの教訓が生きた素晴らしい金言だと思う。今しかできない経験に三つの資産を上手に活用すべきであらう。

退職後に妻と旅行さんまの楽しい生活を送りたいと貯金にいそしんでいる知り合いがいる。同じ歳の妻はとても社交的。早期退職した彼女は習い事やボランティアなど人生を存分に楽しんでいる。しかし、退職前にもかかわらず体力が衰えてきた彼は、遠出するのがおっくうになり、出かける気力が減退。人混みを避けて休日には家でゴロゴロして過ごすようになった。そんな夫を見かねて、妻が旅行に誘ってみるが、2泊3日の旅行から帰ってくるとぐったりして、「やっぱり自宅が一番いい」というセリフを連発するらしい。「時間」と「力ネ」はあるが「体力」がないというのは、50代以降にありがちなことなのだ。

では、三つの資産のバランスをどのようにしてとつたら良いのだろうか？ 1千人の死を見届けた終末期医療の専門家が書いた『死ぬときに後悔すること25』（致知出版社）という本がある。健康や心理、生活などからなる6章構成だが、各章を総括した次の言葉には考えさせられるものがある。『これは等しく皆が言い残した言葉である。いわく、「人生はあつという間であつた」と。死ぬときに後悔すること25のうちの一つは、

自分のやりたいことをやらなかったことだという。そして、後悔しない生き方は「自分を取り戻す」ことだと著者はつつつっている。自分という存在をアグレッシブに体現している子どもたちと同じようになれば、おのずと人生の楽しみを取り戻すことができる主張する。さらに、この本の最終ページを次のように結んだ。『やりたいことをやらねば最期に後悔する。やりたいことはさつとやるべきなのだ』

人生における三つの資産のバランスが取れる時期はないのかもしれない。僕らのこれからの人生に、そのような充実した時期が待っていてくれると信じていたのだが、では、三つの資産のうち最も大切なものは何だろう。それは「時間」かもしれない。限りある時間のなかで足りない資産を他の資産で上手に補って、今そこにある人生を謳歌す

る。後悔しない人生を歩むために、あれこれ考えて多くの人がたどり着いた、それが結論だ。

トルストイは、次のように言っている。「時間が流れる」と私たちは言うが、これは正しくない。進んでいるのは、私たちであつて時間ではない。私たちが川をボートで行くとき、動いているのは岸であつて私たちは乗っているボートではない。時間もそうだ。

トルストイらしい表現だが、時間が止まっているような感覚が大切だと説いているのだろう。時間が経つのを忘れるほど没頭する何かを見つけなさい。トルストイは僕らに、そう言いたかったのかもしれない。

「時間がない」「力ネがない」。やらない言い訳を重ねている暇なんか僕らにはないのだ。

（文章よくなる株式会社代表取締役 工藤勝巳）

〓おわり